

# 高原水車

友の会通信 (第2号)

## 「第1回水車講座」開催

自然から見た

高原水車立地の特性について

講師 出石一雄先生

香川地理学会副会長

元紫雲中学校長

5月31日(土) 午後2時～4時

高松市林町 農協林支店二階にて

主催 高原水車友の会

そろそろ田植えの準備も始まるという時期でしたが、長年香川県の教育界で活躍され、香川の地理学研究に貢献されている出石一雄先生のお話しをお聞きすることができました。



高原水車友の会  
高松市六条町  
高原水車場



出石先生は前日来風邪気味で薬を飲みながらのご出講でした。咳が止まったのでと少々声の調子が悪いとおっしゃりながら、これまでの地理研究の成果と高原水車の地理的性格を結びつけたお話しを披露してくださいました。私たちにもわかりやすくその「名講義」に聞き入りました。

## 高原水車の位置



古川水系に属する  
高原水車

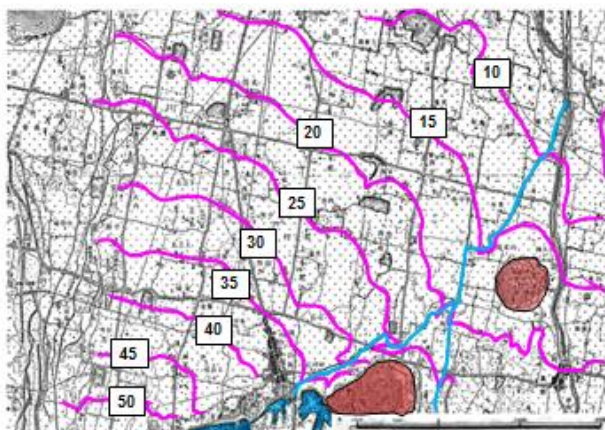
本川	新川	18.7 km
1次支川	春日川	15.1 km
2次支川	古川	6.6 km
3次支川	小作川	3.0 km
2次支川	朝倉川	6.1 km

先生は今回の発表のため、新たにフィールド調査や聞き取りを試みられ、その途中経過を今後の話題提供の一助となればとの思いでお話し申し上げると前置きされました。全35枚のスライドから、最初に「高原水車」が古川水系に属すること、その本川が新川であると地図で示されました。

(本文中の図面・写真は出石先生スライドより)

そして上林・林地帯は香東川の扇状地であり、六条地区はその氾濫(原)平野といえま

## (2) 林地帯の地形

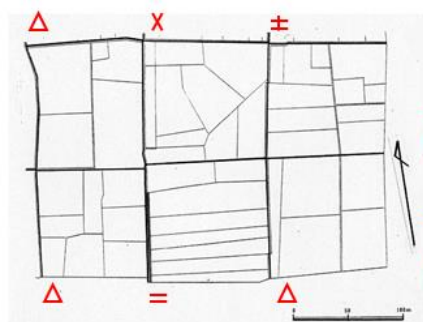


- ・標高 10m~25m
- ・最大傾斜軸 N50°~60°E
- ・傾斜は 南西から北東へ
- ・山・丘のない 平坦な地域

昭和3年測図「高松市南部」1/25000 大日本帝国陸地測量部

## II 林地帯の条里型地割

### (1) 条里型地割の基本的形態



- || 南北長地型 10.9 X 10.9<sup>m</sup>
- = 東西長地型
- ++ 南北半折型 21.8 X 54.5<sup>m</sup>
- ± 東西半折型
- Δ 変形半折型
- X 不整形型

しかしさらに詳しく地割りのなかみを見ていくと場所により異なる特徴が浮かび上がってきます。出石先生は、それを6つの型に分類して林地帯を分析しました。

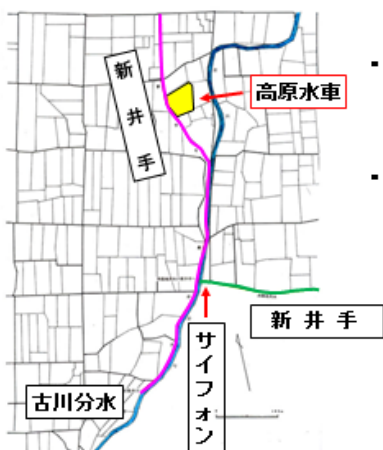
### 目 林地帯の条里型地割

「林地帯の概観」  
冬は西風がきつく、かつて軍用飛行場で大きく改変されたふるさと林地帯とはどんなところかあらためて学ぶことができました。  
まず地形は香東川の扇状地として南西から北東へ傾斜している平坦地であるということです。

す。河川の堆積作用により形成された土地です(「土地条件図」(国土地理院発行 s.61))。  
また、むかしの地名が残る字(下所、天皇、下青木など)の区画は方形型に区画され、さらに田んぼは典型的な坪区画(1坪は109m四方)の条里型地割りがおこなわれていました。

## III 水車地域の地割分布図

### (1) 古川左岸の氾濫低地



- ・北部・西部に約0.8-1.0m余の段丘内部の地割は不整形
- ・古川による氾濫低地の残象地形

明治21年「山田郡切図」より作製

### 目 水車地域の地割分布図

地割り分布図によると水車地域は、×不整形型になります。古川左岸の氾濫低地の残象地形と定義されました。土地の形から三角地です。

写真で見てもよくわかります。

### (3) 三角地が低地であることの証左

地上げしている宅地



北部に発達する段丘



このような地形を前所有者の高原忠雄がどのように見ていたのか紹介されました。

古川は仏生山町魔池・平池のいてめより川添村香伯に至る延長4km余の春日川支流をいう。途中重蓮寺池及び三谷三郎池の各々いてめ及び閘（ゆる）の水、つまり余水の放水路であるが途中三ヶ所

に用水掛井手があり―兩岸に竹木等が密生し川の中、昼なお暗い谷川であった。つまり地形上一番低地を自然に流れ、両側は階段状の圃地になっていた。ここが所謂坦水地帯をなし、下流地帯が一時に増水することを調節する役割をした。

昭和34年「春日川支流古川改修工事についての陳情書（控）」より

このように水車用地は、古川が蛇行している攻撃面近くの左岸にあり、しかも低地であるということから、洪水など自然との共存を迫られるわけですが、出石先生が、良寛の言う「災難に逢う時節には、災難に逢うがよく候……是はこれ災難をのがるる妙法にて候」という自然との共存思想を引いてこられた事には驚きました。確かに年に1〜2回は水車場から下の台所は床下浸水、低い水田は池のようになりました。北側の段丘の上から人がこちらを見ていたのを覚えています。家族は文句を言わず、水の引くのを待っていました。子どもだったので、苦労はよくわかりませんでした。堰を作ったり浸水を防ぐ対策は立てていたようですが、毎年、無堤河川である古川の竹藪から静かに浸水されることに耐えていたのでしょう。そのせいか古川の性質をよく観察していたようにも思えます。

### 水車の水源と新井手（しんいで）

次にいよいよ水源のお話しになります。

溜池を尋ねて撮影されたきれいな写真をたくさん見せていただきました。

水車で使う水は、古川水系（仏生山台地より）と春日川水系（植田丘陵より）の二つの水源を持ちます。古川の水は530m上流で分水し新井手へ、春日川の水はサイフォンで古川へ、さらにサイフォンで新井手へ流れてきます。

### (2) 古川水系

#### A 平池ウテメからの落ち水は前池へ

平池の全景



平池のウテメ



古川水系の水では平池、前池、住蓮寺池、

三郎池等の溜池のウテメからの余水が水車に使われました。春日川水系では神内池や松尾池など四箇池から主に灌漑期に農業用水の一部が使われるのが慣行でした。

### (3) 春日川水系

#### A 神内池とウテメ

神内池全景



ウテメから春日川へ



溜池の余水である古川の水量が豊富な時期は4月、5月に限定され、四箇池では灌漑期の6月から10月に流れが多くなりますが、冬季は水不足になります。明治41年の早い時期から発動機を導入した理由もそのようなところにありそうです。

高原水車が中掛け水車で落差約1.5mを

確保するために①平坦地に立地する水車としては長い導水路が必要になり、②そのため取水口より古川に沿った530m上流左岸で分水し、約210m導水したのち、灌漑水路としての新井手を流し、さらに320m北流させて取水口へと流している、という結論になります。

分水地点の様子は石を並べて洲のようになっていたと古老の方にお聞きすることができたそうです。昔話にまださむらいが水車をやっていたとき、刀で竹藪を切り払いながら上流へ水を仕掛けに行ったという話と符号するでしょうか。

講座の結論として、本水車場が位置する地域は、条里型地割が発達（西部は空港建設で改変）し、しかも現在は著しく都市化が進んでいる。水車場を取り巻く地域には、今に旧田園地域としての貴重な残象的（取水口から放水口まで）景観が見られるなど、原風景が残っている、と締めくくられました。

先生は2時間近くの講演を終え、継いで「森の水車」の歌を流されました。奥様がきれいなソプラノで歌われたものでした。参加者の方の感想に「会の時にはいつも聞きますよう」とあり、楽しい水車講座となりました。

（講演の記録DVDは友の会にあります。）



講演中の出石一雄先生



農協林支店にて水車講座開催

（平田恵美記）

# 水路浚渫にとりくむ

水車を回すには、まず下流を浚渫しなくちやと、水車講座の翌日6月1日、2日とやる気十分の「水路グループ」が朝から道具持参で集まった。熱中症にならないように休憩を取りながら、幅70cm、深さ30cm、延長80mの溝掘りに取りかかった。一日目は半分、2日目には、貫通し、暗渠に溜まった水を流してみた。何とも言えないせせらぎの音がして勢いよく水が流れた。新しい川ができたような気がした。手作業土木工事の醍醐味と言うべきか、一同静かに歓声を上げた。

暗渠にあった水量に限りがあったので、残念ながら最末のヒューム管までは届かなかった。それでも尊い一歩になったと思う。



森野・植松・増田・高見・佐藤の各氏



日陰の作業は助かる。



石垣水路の幅1mです。森野さん、たばこが離せません。



排水口直下を浚渫する。



きれいに掘りましょう。



昔の谷川は土が堆積して道になっていた。川底から岸まで高さ約1.7mはあったのだが。



一日目の作業はここまで。古川の川底は香東川と同質の小石であると、高原忠雄の記録にあるが、白っぽい砂しか出てこなかった。

作業の様子を撮った動画もあります。数分間ですが感動的です…。



ここまで水を流そう。  
左の大きな土管は大洪水に備えたものとか。  
右土手下を排水用ヒューム管が通っている。



水の到達点はここまでか。  
左から佐藤、増田、植松。



2日目。音を立てて水が流れる  
佐藤さんは流れる音に聞き入る。

「五郷」にちなんだ今年五月五日に落成式が行われた。観音寺市大野原町五郷地区の人達が地域活性化のシンボルにしようと、前田川沿いの元落合集会所前に水車小屋を建設した。直径4mの上掛け水車である。小屋内には米と麦の搗き臼が動いている。落成式には五郷活性化センターに多くの人が詰めかけた。「五郷里づくりの会」が平成23年末から取り組んできた。

佐藤、堀家、植本他が見学。



## 五郷の里水車見学



### 高原水車友の会活動日誌及び予定

- 4月23日 仏生山水車水路痕跡見学
- 5月3日 友の会通信創刊号発行
- 5月5日 観音寺「五郷の里」水車見学
- 6月3日 「第1回水車講座」開催
- 6月1日 旧古川水路浚渫
- 6月2日 旧古川水路浚渫
- 7月2日 水車場公開 企画委員会
- 7月16日 幟旗作製
- 7月24日 材木モロダ調達に行く
- 7月26日 水車場公開 企画委員会
- 8月3日 親子体験学習「讃岐の水車小屋を訪ねる」瀬戸内海歴史民俗資料館と共催
- 8月30日 水車場公開
- 9月27日 水車場公開
- \*毎月末(金)(土)は活動日。そのうち(土)は水車場公開日



幟

高原水車友の会  
連絡先…0877・33・4601

堀家